



高温障害対策に

農林水産省登録
第13276号



白未熟粒の発生を軽減!!

白未熟粒
(乳白粒)



完全粒



詳しくは
特設サイトを
チェック!

その他の白未熟粒



心白粒
中心部が白濁



基部未熟粒
基部が白濁



腹白粒
腹側が白濁



背白粒
背側が白濁

※玄米の胚を下にして立てた際に、胚がある側を腹側、反対側を背側と呼びます。



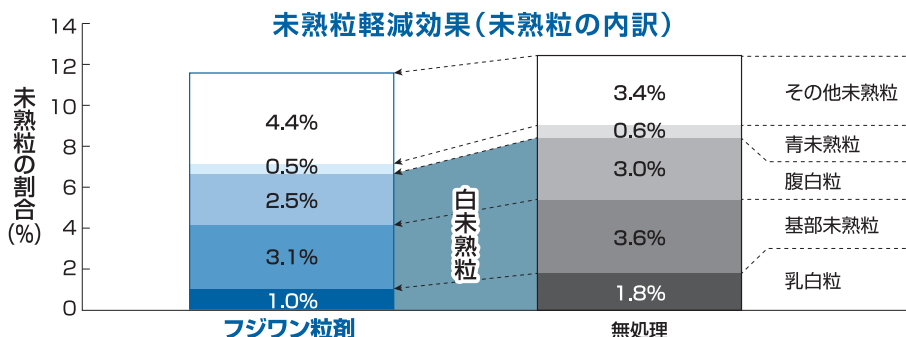
(写真はイメージです)

®は日本農薬(株)の登録商標

「WCS用稲に使用できる農薬のリスト」に記載

 **NICHINO**
日本農薬株式会社

試験成績

植調福島試験地圃場
〈県農業総合センター内〉(2018年)

品 種：ひとめぼれ

耕種概要：移植5月8日 出穂7月30日

処 理 日：7月19日(出穂11日前)

処 理 量：4kg/10a

白未熟粒の発生が無処理と比較して約20%減少しました。

■適用病害虫・使用目的および使用方法(抜粋)

<2026年1月現在の登録内容>

作物名	適用病害虫名・使用目的	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソプロチオランを含む農業の総使用回数
稲	登熟歩合向上	3～4kg/10a	出穂10～20日前 但し、収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	3回以内 （移植前は1回以内、 本田では2回以内）
	高温登熟下における 白未熟粒の発生軽減	4kg/10a				
	いもち病	3～5kg/10a	葉いもちに対しては 初発7～10日前 穂いもちに対しては 出穂10～30日前 但し、収穫30日前まで			
		育苗箱 （30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ） 1箱当り50～75g	苗の緑化期から 移植直前まで	1回	本剤の所定量を育苗箱中の 苗の上から均一に散粒する	
	小粒菌核病	4～5kg/10a	出穂10～30日前 但し、収穫30日前まで	2回以内	湛水散布	
	稲こうじ病	3～4kg/10a				
	ムレ苗防止	育苗箱 （30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ） 1箱当り15g	は種前	1回	本剤の所定量を所要量の 育苗箱用の床土に均一に混和する	
		育苗箱 （30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ） 1箱当り25～50g	苗の緑化始期		本剤の所定量を育苗箱中の 苗の上から均一に散粒する	
	根の伸長および発根促進					

(詳しくは製品ラベルをご確認ください)

注意事項

- 極端な漏水田での使用はさけてください。
- 所定量を均一に処理してください。
- 本田で使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 散布に当たっては、田水深を3cm以上の湛水状態とし、散布後少なくとも3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
 - ② いもち病に対して予防的に散布した場合に有効であり、葉いもち防除の使用適期は初発の7~10日前です。発生予察情報に注意して時期を失しないように早目に散布してください。穂いもち防除の使用適期は出穂20日前(葉いもちの発病程度、気象条件などにより出穂10~30日前)です。
 - ③ いもち病を主体に小粒菌核病との同時防除に使用できますが、多発時の小粒菌核病(小黒菌核病)には効果が十分なことがあるので注意してください。
 - ④ 小粒菌核病に対しては時期を失しないようなるべく早目に散布してください。
- 育苗箱で使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 苗の上から均一に散粒し、直ちに上から湛水して粒を崩壊してください。なお、最初の湛水で粒を崩壊させないとその後の乾燥により粒が硬化して崩れ難くなるので注意してください。
 - ② いもち病に対して使用する場合は、移植後およそ6週間を経過すると葉いもちに対する防除効果が弱まるので、移植後葉いもち発生までの期間を考慮して使用してください。なお、天候不順等で葉いもちの発生期間が長びく場合、又は葉いもちの発生が遅れた場合には必要に応じて本田でいもち防除剤を追加散布してください。
 - ③ いもち病に対しては、苗の緑化期から移植直前まで使用できますが、箱内の苗いもちも合わせて予防するためには、緑化期から硬化初期に散粒してください。但し、その場合本田で安定した葉いもち防除効果を得るためには1箱当り75gを処理することが望ましいです。
- ムレ苗防止に使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ① 育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗(生理的な急性萎凋障害)に対して有効ですので、このようなムレ苗の発生する地域で使用してください。
 - ② 苗立枯病には効果がないので、育苗に際して苗立枯病が発生するおそれがある場合は、それらに有効な薬剤と体系処理をしてください。
 - ③ は種前又は苗の緑化始期にいずれか1回処理してください。
- 稲の登熟歩合向上を目的として使用する場合は、低温等生育不良条件下及び高温登熟条件下で効果的なので、これらの条件下で使用する事が望ましいです。
- 稲の高温登熟下における白未熟粒の発生軽減を目的として使用する場合は、高温登熟条件下で効果的であるので、この条件下で使用してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布後は水管理に注意してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。
●使用後の空袋等は圃場などに放置せず、適切に処理してください。



NICHINO

日本農薬株式会社

TEL: 0570-09-1177 URL: <https://www.nichino.co.jp/>東京都中央区
京橋1丁目
19番8号

2026年1月作成版(ZN)JR12601S